

## 32 蠟防染の染色堅牢度（第2報）

高知女子大学 松浦千代子

最近蠟染は工芸染色の中でも大幅に場をしめて隆盛を極めていた事は周知の通りである。

蠟染は高温染色に堪えられないため、低温染色に適した染料を選んだり、染料の種類により特別の工程を経て仕上げるので、染色の堅牢さとか、織物に及ぼす影響に就いて比較研究した。蠟の種類、蠟の使用分量、温度（描く）、等の影響もあろうと思われるが、この点は後日にゆづり、染色の点のみを比較した。

供試材料……布＝日清紡績三桃 4000 番  $40^2 \times 40^2$  染料＝第1報の引染めに使用した中、浸染に適した染料で比較的良結果を得たものに新しく浸染に適したものを加えて4種類に分け各属の中を3ヶづつの染料を使用することにした。

試験の範囲は、染色堅牢度では汗、洗浄、強洗濯、耐光、摩擦。織物の堅牢度では強伸度、引裂強力、柔軟度。

### 実験の結果

染色試験は直接染料が弱い。金属塩後処理に適したものの、堅牢度の高い Sirius 系を使用したのが他の種類のものに劣る。Naphthol A S 類は木綿繊維には良結果が得られる事も確認出来た。

蠟の除去不完全は柔軟性を欠き、外観手触りも悪いが強伸度、引裂強力は高くなる。

大体に蠟の布に及ぼす影響は殆どないようである。